蝶の羽

猫田楓

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
蝶の羽

【Ｎコード】
Ｎ２７１９Ｑ

【作者名】
猫田楓

【あらすじ】
平凡な大学生と、謎の社会人とのちょっとかわった恋愛の話し。大学生は危険な恋だと知っているが、運命を翻弄される。すべてはあの不思議な出会いから始まった。

恋の始まり

あなたはよく私との関係をこう言う。
「まるで蝶と蜘蛛のようだね。俺は腹をすかせた蝶。お前はまるで空を自由に飛ぶ蝶みたいだ。お前は俺のためだけに存在していればいい。俺のためだけにきれいな羽を見せてくれ」と。

平凡な大学生だった私の日常を変えたのは一つのサイトだった。元から寂しがり屋だった私にとって人と繋がることができるものだったら何でも良かったのかもしれない。

それは複数の人が匿名で文字で話しをする。そう・・・それはあるチャットサイトだった。

チャットで過ごす時間はただの暇つぶし。きっと誰もがそう思って何気ない日常の中でチャットをしている。ひと時の寂しさが紛らわされるのなら・・・。相手は誰でもよかった。私の存在を証明してくれるのなら。

そんな時に私はある一人の男性と出会う。始まりは本当に突然で偶然だった。

蝶：こんばんは＾＾
蜘蛛：こん＾＾
蝶：お初だよね＾＾よろしくw
蜘蛛：よろしくー。何才？
蝶：２０の大学生。
蜘蛛：俺は社会人。ちなみに３０歳ね。

私たちがこんな風に知り合ったのは偶然だったのか、必然だったのか今となっては分からない。

私はその文字上の関係がこんな風になるなんて思っていなかった。

そう、あなたとの関係が。。。。。

恋の始まり（後書き）

今回初投稿です。
読んだ方、できれば感想を書いてもらえるとありがたいです。

捕えられた心（前書き）

今作の第二章となっています。
話しがそれなりに展開しています。

捕えられた心

彼と出会ってしまったのは偶然なのか、必然なのか。

でも確かに分かることといえば・・・

そう、確実に私は蜘蛛の巣に捕えられてしまったということ。

あなたが蜘蛛になるなら私は喜んでこのきれいな羽を差し出そう。

第二章　捕えられた心

私は今日もチャットルームに行く。

そう、それはただ寂しさを紛らわせるため、時間をつぶすため。

私と話しをしてくれるのならだれでも良かった。

そんな私にあなたは終わり際にこう言った。

蜘蛛：明日もここの部屋に来る？また話さないか？

チャットでそんな風に言われたことは初めてじゃない。

「スカイプやらない？」

「実際に会おうよ。」

「メアド教えて。」

そんな軽い男なんてチャットにたくさんいる。

そんな男に私は決まってこう言うんだ。

「チャットみたいなネットでの文字関係だけなら、愛情は生まれない。
遊びたいなら、ほかの部屋に行って。」と。
でもなぜだろう。
胸がざわめく。
私は思わず、
蝶：いいよ。明日もまた同じ時間にこの部屋で。
と返事をしてしまった。
もう後には戻れない。
この時から私はもう、逃れられない運命だったのかもしれない。
蜘蛛の糸はするすると私の体に巻きついて、平凡な毎日を一変させた。
あなたとまた話せるなら、私は喜んで私の時間を差し出そう。
そう思えた遠いあの日。。。。
あなたと話せるだけでよかった。

捕えられた心（後書き）

第二章です。
読んだ方引き続き感想を書いてもらえるとうれしいです。
次の話しを書く時の活力になります。

蜘蛛の正体（前書き）

主人公が相手の男性について少しずつ知り始めます。
彼女の運命はいかに・・・。

蜘蛛の正体

あなたの事を知ってしまった。

あなたも私を知りすぎてしまった。

もうお互いに逃げられない。

第三章　蜘蛛の正体

蜘蛛：また明日も話さないか？

あなたのこの言葉を信じて私は今日もチャットに入る。

平凡な日常。平凡な私。

今日も昼間は大学生として講義を受ける。

そして夜は・・・。

蜘蛛：こんばんは。

蝶：こんばんは。

蜘蛛：本当に来てくれるとは思わなかったよ。

チャットって不定期じゃん。

蝶：どうせ暇だしね。
一人暮らしだし、これくらいしかやることないもん。
蜘蛛：そういえば俺、お前についてなにも知らないんだ。
大学生だっけ？
蝶：そう。
ただの大学生。
蜘蛛：ふーん。
俺について知りたいとか思わないの？
蝶：思わないかな。
だってチャットだし、いくらでもウソ付けるじゃん。
蜘蛛：そうかな。
とりあえず、おれは３０歳のサラリーマンだから。
蝶：そうなんだ。
結構年上だね。
蜘蛛：年上年上。
こんな年上には興味ないって？
蝶：そういうわけじゃないけど。
あんまり今まで話してる人に興味湧いたことなかったから。
蜘蛛：ふーん。
おれはいつでもお前の事知りたいと思うけどな。

蝶：・・・・・。

蜘蛛：とりあえず、遅いからまた明日同じ時間な。
俺はお前のこともっと知りたいから。
それじゃぁおやすみ。

蝶：おやすみ。

何故だろう。
胸がざわめく。
チャットなんてって思ってた自分。

でもこれだけは確かに言える、多分明日も私は同じ時間にあなたに会いに行くと思う。

私もあなたの事が知りたい。

そう思ってしまった私は、もう蜘蛛の巣からは逃げられない。

ｔｏ　ｂｅ　ｃｏｎｔｉｎｕｅ・・・・

蜘蛛の正体（後書き）

第三話です。
あまり状況が展開しませんね。。
次もなるべく早く書きたいと思います。

あなたと私を繋ぐもの（前書き）

ついに主人公の大学生の核心に迫ります。
なぜチャットにそこまではまってしまうのか。
蜘蛛の登場が少し少ないかもしれないです。

あなたと私を繋ぐもの

「君のことがもっと知りたいんだ。」

そう言われたのはチャットでは初めてじゃない。

でもあなたに言われると全然言葉の重みが違ってくる。

何故だろう。

それは多分、私があなたに心を捕らえられてしまっているから。

そして今日もあなたのもとに会いに行く。

あなただけの蝶として。

第四章　あなたと私を繋ぐもの

あなたとチャットを始めてしばらく過ぎた。

私は今日も平凡な毎日を過ごす。

いつもと変わらない講義、いつもと変わらない風景。

そんなある日の午後友達とご飯を食べていた時のこと。

「海ってさ、なんでそんなに冷めてるの？

せっかくの大学生活なのに恋人の話題も聞かないじゃん。

それなりに美人なんだからさ、海の方から言えば誰とでも付き合えるのに。
もったいないよ。」

親友の麻美に言われて初めて気がついた。
自分は普通にしていたつもりなのに、周りからはそう見えているんだ。

確かにそうかもしれない・・・。

大学で出会う男性たちは、話したりしていて楽しいのだけど、どこか違うなぁって思っていた。
一緒に遊んだり、女友達と一緒に家に呼んでお酒飲んでバカ騒ぎしたりはするけども。

多分、普通はそういう時に恋愛って始まるのかなって思う。

でも私は違っていた、それだけ仲良くなってもどこか違う、一線を引いて付き合ってしまう。
きっと、どこかで思っているんだと思う、「それは恋愛対じゃないでしょ。」と。
大学にいる沢山いるカップルを見ていると羨ましいと思うけれども、私には遠い世界だって思っていた。
私はきっとそんな人たちとは違って、恋愛なんて大学時代にしないんだろうなって・・・。

親友の「恋人の話題」という言葉を聞いて、あなたの事が真っ先に浮かんでしまった。

これは恋なんだろうか・・・。

私は自分に何度も何度も問い詰める。
こんなに胸がドキドキしたのは久しぶりかもしれない。
自分の気持ちがホントの気持ちなのか早く確かめたい。

そう思って私は今晩もチャットに入る。

私とあなたを繋ぐのはそこだけなのだから。

人間は文字で話しをするだけでも恋心を抱くのだろうか？
考えられない。

でも私は今、この時もあなたの事をどうしても思ってしまう。
この胸の高まりは止められない。

ｔｏ　ｂｅ　ｃｏｎｔｉｎｕｅ・・・

あなたと私を繋ぐもの（後書き）

第四章です。
主人公の現実生活にせまります。
お気に入りに登録してくれた方、ありがとうございます。
できれば感想など頂けるとありがたいです。
読み手側の意見を客観的に知りたいと思うので。
また次回執筆の活力にしたいと思います。

ざわめく胸（前書き）

二人の関係が核心に迫ります。
続きどうなるのやら。

ざわめく胸

この胸のざわめきはなんなのだろう。
人間は文字に恋をすることはない。
でも、どうしてだろう。。。
「恋人」という二文字を聞くと、あなたが思い浮かんでしまう。
こんな私はおかしいのだろうか。

第5章　ざわめく胸

私は早速親友に言われた言葉を思い出す。
年頃の女の子だったらやっぱり同世代の男性と恋愛をするのが普通なのかなと思ったり。
でも、私はやぱり思う。
大学の男友達とはどこか違う。
あなたの雰囲気に惹かれたのかもしれない。

蝶：こんばんは。
蜘蛛：こんばんは。
蝶：今日も来ちゃった。
蜘蛛：最近毎日だね。
　そろそろ俺のこと好きになっちゃったんじゃない？
蝶：そんなことないけど。
　だって人間は文字に恋しないでしょ？
蜘蛛：そうだけどさ、でも俺なんかお前とは恋愛できそうな気がする。
　最初からチャットしてる時からそう思ってたんだ。

蝶：どうせ遊びなんでしょ？
チャットだし。
蜘蛛：遊びだと思う？
俺それなりに社会的地位あるし、遊んでる暇なんてない。
それでもこうして毎日話しに来てるんだ。
俺が言いたいこと分かるだろ？
蝶：うん。。。。。

正直驚いた。
こんなふうにずっと考えていたのか。
文字人は恋をしない。
でも、あなただったら信じられるかもしれない。
私の乾いた心を燃え上がらせてくれるのかもしれない。
そう思って私はまた今日もチャットへ行く。
ｔｏ　ｂｅ　ｃｏｎｔｉｎｕｅ・・・

ざわめく胸（後書き）

大学のレポート書いてて更新が遅れました。
これからも少しは遅れるかもです。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2719q/

蝶の羽

2011年1月26日08時44分発行